慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	追悼文：中山俊宏さんとSFC
Sub Title	Mourning : Toshihiro Nakayama and the SFC
Author	神保, 謙(Jimbo, Ken)
Publisher	慶應SFC学会
Publication year	2022
Jtitle	Keio SFC journal Vol.22, No.1 (2022.) ,p.4- 7
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=0402-2201--004

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

追悼文
中山俊宏さんと SFC

神保　謙
慶應義塾大学総合政策学部　教授

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの研究棟イプシロン館５階にある、中山俊宏さんの研究室の前にある白いクロスの献花台には、生花、メッセージブック、そしてジャックダニエルのボトルが供えられている。中山研究会の学生たちが湘南藤沢事務室と協力して、飾り付けたものだ。学生たちによって生花は定期的に手入れが施され、メッセージブックには学内外から弔問に訪れた同僚や友人の追悼文が溢れている。そして手を合わせたあとに、ジャックダニエルで献杯することもできる。

中山 俊宏 1967-2022

中山さんの逝去があまりに突然だったことから、SFC 教職員や学生たちの誰もが気持ちを整理できていない。今にも研究室のドアが開き、中山さんが笑みを浮かべて迎え入れてくれそうな思いを、研究室を弔問に訪れた皆が抱いていたようだ。中山さんが新緑のキャンパスの芝生を歩き、教室で学生たちと楽しそうに議論し、遠い場所からでも目を細めて手を振ってくれたのは、つい先日のことだ。

2022 年 5 月 1 日夜、中山さんはくも膜下出血により永眠した。前日に自宅で倒れて病院に搬送され、集中治療室での懸命の治療も空しく他界した。5 月の連休中に葬儀・告別式が近親者によって営まれ、SFC 内では執行部と関係者との緊急会議を経て、5 月 9 日に訃報が告示された。湘南藤沢事務室総務から定型文によって配布された訃報に、多くの教職員が目を疑った。

中山さんの訃報は国内外に大きな衝撃を与え、主要各紙や報道番組で

も取り上げられた。日本国内の主だった外交シンクタンクや米国大使館が弔意を表明し、産官学から多くの弔電が大学宛に寄せられた。米国研究者の中山さんが、研究と知的交流の拠点としていた米国ワシントンDCやニューヨークからも、米ウイルソンセンター、戦略国際問題研究所、外交評議会など名だたる研究機関が中山さんの逝去を惜しんだ。多くの米国の政策シンクタンクの研究員らが、故人の家族宛に追悼レターを冊子にして送ったことも、中山さんの幅広い交友を物語る。米国の友人たちの弔意をいくつか紹介したい。

中山俊宏・慶應義塾大学教授のご逝去の報に接し、深い悲しみに暮れています。「トシ」こと中山教授は、日本を代表する国際関係の専門家の一人で、国務省の人物交流プログラムの素晴らしい同窓生でもありました。ご家族ならびにご友人、関係者の皆さま方に心よりお悔やみ申し上げます。(アメリカ大使館 Twitter 5月10日)

日米関係のコミュニティは大きな喪失に直面しました。多くの人々が知るように、トシは著名な研究者であり、公的知識人であり、優しい友人でした。私たちは米国人と日本人が世界をどのように理解しているかを語る重要性を共有していました。そしてトシは「学術的に学んだことを広く伝えることは教育者としての義務」と捉えていました。(シーラ・スミス外交評議会上級研究員)

通常であれば外国人には頼まないことですが、中山さんはよく請われて米国を訪れ、米国について語りました。実際、中山さんの米国理解はとても深く、我々は彼を通じて自分たちとは何か、をより深く学ぶことができたのです。(ザック・クーバー米アメリカン・エンタープライズ研究所上級研究員)

中山さんは1967年東京都に生まれ、小学生のときにご家族の転勤に伴い、アメリカ・ニューヨークで5年間を過ごした。高校は青山学院大学高等部に進学し、青学のインターナショナルフェローシッププログラムで、アメリカサウスダコタ州ウォータータウン高校に1年間留学をしている。中山さんのみた米国社会の

原風景は、このときの米国中西部で過ごした経験だったように思う。

中山さんは青山学院大学を卒業した後に、アメリカワシントンポスト紙の極東総局の記者を経て、国際連合日本代表部の専門調査員として、再び2年間ニューヨークに滞在する。その後、日本に帰国し、外交シンクタンクである日本国際問題研究所アメリカ研究センターに研究員として赴任した。

中山さんは「米国共産党研究にみる政治的知識人エートスの変容」という題目で、2001年に青山学院大学大学院で博士号を取得する。中山さんの研究の源流をなす米国思想史のなかで、米国になぜ社会主義があるのか、という問いについて、アメリカ共産党結成の来歴からニューレフト運動までを解題した。

この研究を基盤として、中山さんは国際政治学の学術研究者として、そしてシンクタンクで活躍する政策研究者として、米国研究と日米関係の知的交流を中心的に担っていく。日本国際問題研究所の主任研究員を経て、中山さんは津田塾大学、そして母校である青山学院大学に赴任し、教育研究活動に邁進した。このころの研究活動をまとめた成果が、2013年に発表された二つの著作『アメリカン・イデオロギー：保守主義運動と政治的分断』と『介入するアメリカ：理念国家の政治観』(共に勁草書房, 2013年) である。

青い表紙の『アメリカン・イデオロギー』は、政治思想研究を土台としながら、アメリカの保守主義運動、宗教右派の台頭、そしてそこから生じる米国政治社会の分断の苦悩を描き出した渾身の著作である。また赤い表紙の『介入するアメリカ』は、米国の対外政策と安全保障政策史に焦点を当て、コソボ介入、9.11テロとアフガニスタン戦争、ブッシュ政権のイラク介入といった、米国の対外介入の政策過程と、その背景にある米国政治の基盤について論じた。

過去10年間、中山さんは日本を代表する米国政治外交の専門家として、日米関係を担うシンクタンカーとして、日本外交のあるべき姿を模索する言論人として、群を抜いた存在だった。大学における研究と教育をリードしてきたのみならず、日本の対外発信の中心的存在であり、政界・官界そして経済界の指南役でもあった。

中山さんは2014年に慶應義塾大学総合政策学部に教授として赴任

し、SFC を拠点とした研究・教育に取り組んだ。中山さんが担当した授業は、「日米関係史」、「歴史と文明」、「地域と社会」、「地域戦略研究」など多岐にわたる。また慶應義塾全体（全塾）の活動としては、慶應義塾グローバルリサーチインスティテュート（KGRI）の副所長として、リチャード・アーミテージ元国務副長官・本学名誉教授を記念する、アーミテージ記念教育事業を担当した。また 2022 年 2 月のロシアによるウクライナ侵攻を受けて、KGRI の特別オンラインセミナーを企画し、多くの反響を得たことは記憶に新しいところだ。

中山さんは、SFC を愛しみ学生たちをとりわけ大切にしていた。2020 年にコロナ禍によって対面の授業が制約される前まで、中山さんは毎年研究会の学生と合宿をするなど、学生に対して情熱的で丁寧な研究指導に定評があった。中山研究会の学生たちは、今や日本全国や海外で活躍している。

2022 年春学期の中山研究会には、アメリカ研究を志す多くの学生たちが集まり、その研究関心はアメリカ政治、選挙、外交、社会・文化と多岐にわたっていた。彼／彼女らが学期の途中で、慕っていた指導教員を突然失った喪失感は、いかばかりかと思う。幸いなことに、中山さんの逝去を悼む多くの方々が教育を支えてくれた。双日総合研究所の吉崎達彦チーフエコノミスト、米国先端政策研究所（CAP）のグレン・S・フクシマ上席研究員、タレントのパトリック・ハーラン氏らが、中山研究会にゲスト講師として来訪し、大いに学生たちを勇気づけた。

中山研究会の学生たちは、指導教官を喪失した学期に自らを奮い立たせ、「Z 世代の政治観」「公民権運動から BLM まで」「米社会とジェンダー概念」「米大統領選挙とスイングステート」「米移民と人種問題」「米国の対外介入」などのグループ研究を発表した。彼／彼女らの発表を聞きながら、中山さんのスピリットが新たな世代に継承され、SFC の教室に響き渡っていることを確認することができた。